

TAS PROGRAM DISCUSSION

TASプログラム 座談会

専門知識×応用力で税務のスペシャリストに!

税務および会計に関する高度専門職業人の養成を目的とするTASプログラム。税理士志望や、企業の税務・管理部門での活躍をめざす学生を対象としています。税理士試験科目の免除申請に対応したカリキュラムで資格取得をサポートしつつ、法学・経済学・会計学など多様なアプローチから税務について学修し、実践力がつく点が特徴です。TASプログラムの担当先生方と履修生にお集まりいただき、関西大学大学院商学研究科の魅力や研究の面白さ、後輩へのメッセージなどについて聞きました。

■ 関西大学大学院 商学研究科博士課程 前期課程1回生



朴賢志さん 谷川明生さん 畑中彩希さん 富麻藍さん 有本咲季さん 西本大輝さん 三木翔太さん 木佐貫達也さん 佐野康崇さん 今井勇輝さん

■ 関西大学大学院 商学研究科



石田 和之 教授
担当:租税論



齊野 純子 教授
担当:会計制度論



辻 美枝 教授
担当:租税法

が、専門学校の勉強だけでは、教わった解釈のみに固執しがちです。税法のみならず、他分野の授業もあり、様々な勉強ができる環境にも魅力を感じています。

三木さん:私は租税法について体系的に学びたいと考えていました。ここで学ぶことが将来税理士として働く際に自分の武器になると確信しています。また、将来の独立を視野に入れた際、経営的な知識も身につけられると考えました。

佐野さん:私は大学時代から税理士を目指していて、とにかく早く資格を取りたいと思っていました。ただ、実際に4回生になって調べてみると、税法免除が取れるだけでなく、「こんなにたくさん学べる場所なんだ」と知ったことが進学の手になりました。

富麻さん:4回生の時に租税法ゼミに参加したことがきっかけです。私は経営学部出身だったので、当時は租税法の知識が全くありませんでした。2年間かけてじっくり学べると思い、進学しました。

関西大学大学院に進学した理由

齊野教授:数ある大学院の中で、関西大学大学院に進学する決め手となったのは何かを教えてください。

西本さん:私は学部時代も関西大学に通っていました。学部の頃に辻先生、石田先生、齊野先生の授業を受け、TASプログラムについても教えていただきました。進学する大学院は指導教員が自分に合う大学院を選ぶべきだと感じ、辻先生、石田先



生、齊野先生がいらっしゃるこの商学研究科で学びたいと思いました。

谷川さん:私は関大経済学部出身で、もともと関大が大好きなんです。社会人を10年以上経験する間もずっと大学院が気になっていました。そんな時にTASプログラムを知り、租税法に特化した学習ができることや、会計学の専門知識や実務を学べるインターンシップが組み込まれている点に強い魅力を感じて選びました。

今井さん:私は歴代のパンフレットで「在学生の声」を読みました。実際に学んでいる人たちのリアルな声はとても大事だと思います。体系的に学べる環境や、試験勉強の孤独感とは違う、仲間と切磋琢磨できる雰囲気にも惹かれました。

朴さん:私は他大学の経済学部出身です。税理士を目指すプログラムは他にもありましたが、ここまで全面的に「税理士養成」を強調しているところは他にありませんでした。

木佐貫さん:3つ理由がありました。1つ目は環境です。カリキュラムは、著名な教授の講義が組み込まれていて質が高く、かつ、設備も充実しており研究にコミットできる環境であること。大学受験の際は関大に落ちてしまったので、リベンジしたかったこと。最後に、奨学金制度が充実していること。

研究テーマと研究の楽しさ

齊野教授:現在取り組んでいる研究テーマと、どのようなときに研究が楽しいと感じたか、教えてください。

佐野さん:研究テーマは検討中ですが、所得税のギャブルに対する課税に関心があります。自分の興味があることと学問が結びつくのは面白いですね。院生活では、優しい仲間と囲まれて気持ち共有できる時間が楽しいです。

有本さん:私は「法人税法における損失と損害賠償請求権の帰属時期」について研究を進めています。50年以上前から議論され続けているテーマですが、今なお議論が継続している過程を知るのが面白いです。昔の人の知恵を借りながら、現代においてどう対応していくべきかを考えることに学術的な魅力を感じます。

富麻さん:私は「デジタルノマドワーカーの課税方法(PE課税)」について検討しています。もともと海外の税制に興味があ

ったので、他国の歴史や文化を紐解きながら税のあり方を調べるのが楽しいです。

木佐貫さん:私は「適格合併時における欠損金の引き継ぎ」がテーマです。研究を進めると当初の考えとは違った様々な論点が見えてきました。自身の研究をどの方向に伸ばしていくか、自分で研究の方向性を決めていく過程に、面白さを感じます。

三木さん:私は「違法な支出(架空経費を計上するための協力金など)を損金に算入できるか」というテーマです。先行研究や判例を学ぶことで、宅建法など他法令との関連や、脱税協力金のような違法支出を損金に算入できるか否かといった法人税法上の論点を掘り下げるのに、やりがいを感じます。

TASプログラムの魅力

齊野教授:これから進学を考える後輩たちへ、TASで学ぶ魅力を伝えてください。

今井さん:一番は「みんなで学べること」です。一人だと考えが偏りますが、ここは「十人十色」。仲間の意見を聞くことで多角的な視点が得られます。



谷川さん:社会人で働いている時は地道に勉強していましたが、ここでは堂々と仲間と切磋琢磨できます。他大学院や他研究科との交流もあり、同じ目標を持つ仲間がいると感じられる環境が一番の魅力です。

朴さん:図書館が充実していることです。また、事業会社に勤めている方が講義で実務の話をしてくださるのもTASならではの良さです。

畑中さん:院生には自分専用の机があり、勉強しやすい環境が整っています。これは他の大学院ではなかなか見られません。また、他大学と一緒に発表をする機会もあり、関大生以外の視点を学べるのも魅力です。研究室や休憩室には歴代の先輩が残してくれた資料もあり、助けられています。

西本さん:他大学に比べて比較的少人数制なので、先生から質の高い指導を受けられます。国際課税に詳しい先生もいらっやいますし、学生同士や先生との距離が近く、辛い時も周りと相談して乗り切れます。

進学に向けた準備とアドバイス

齊野教授:進学前に準備したことや苦労したことなど、後輩に

アドバイスをお願いします。

有本さん:商学部の指定図書が5冊ありましたが、最初は理解できませんでした。そこで、まずは学部生向けの初歩的な本や一般的なビジネス書を読み、知識の土台を作ってから指定図書に戻りました。過去問を取り寄せ、重要論点をPCでまとめて対策を行いました。

畑中さん:私も指定図書は難しく感じました。ネットで税法初心者でもわかりやすい本を探して読んだり、税法を全く知らない友達に自分が読んだ内容を説明してみたりしました。意外な視点から質問が飛んでくるので、説明できない部分は理解できていないと気づかされました。入試対策としては、自分に合う1冊を決めて徹底的にやるのが良いと思います。

三木さん:私は3冊ほど借りて読み比べ、自分が一番分かりやすいと感じた1冊に決めました。その本をインプットの基礎として、30回くらいは読み込みました。

佐野さん:指定図書が難しいと感じたので、まずは分かりやすい解説書を買って読み、知識を得てから指定図書に臨みました。また、過去問を解くことで傾向と対策を練りました。

富麻さん:指定図書5冊を期限内に読み切るのは難しいと考え、一番シンプルな本をひたすら読み込みました。そして過去問からどのような問題が派生するかを分析し、事例を自分で考えてトレーニングしました。

後輩へのメッセージ

齊野教授:最後にTASプログラムを考える後輩たちへメッセ

ージをお願いします。

今井さん:入る前は不安もありましたが、学生同士の距離も近く、すぐに友達もできます。不安があっても安心して飛び込んでください。

朴さん:税理士試験が終わっていない方でも、試験勉強と研究は両立可能です。TASプログラムでは、コミュニケーション力やプレゼンテーション力など、税理士として必要な総合力を育めます。

西本さん:受験勉強では取り組めないような裁判例も深く学べます。以前は実際の仕事内容がイメージできていませんでしたが、進学してからよく分かるようになりました。

木佐貫さん:入学前の独学での勉強に比べて、この1年は質と密度の高い勉強ができました。ここで学んだ内容は必ず将来の実務に役立つと感じています。

谷川さん:私は社会人を経て、子育てをしながら保育園の送り迎えをしつつ通っています。世代はひとまわり違いますが、皆で楽しく過ごせています。

石田教授:今日は、皆さんの率直な思いを聞くことができました。税理士試験の可否発表も出たところだと思います。これからも頑張ってください。

辻教授:授業とは違う皆さんの思いが聞けて良かったです。研究は苦しい時もありますが、それを乗り越える楽しさもあります。皆さんのさらなる成長を楽しみにしています。

齊野教授:皆さんの熱意に私自身も刺激を受けました。最後は自分を信じるしかありません。今の気持ちを糧に、自分の力を信じて進んでください。本日はありがとうございました。

